

春日山原始林を未来へつなぐ会

「春日山原始林アートプロジェクト」WEB 版

令和4年(2022)7月12日 <https://camp-fire.jp/projects/view/595722>

「奈良・春日山原始林」貴重な森を守り伝える
アートプロジェクトを開催したい！

春日山原始林の抱える緊急の課題や魅力・価値をアートの力を通して広く伝え、素晴らしい自然を次の世代へ残すために立ち上がりました。

●私たちの課題「1000 年続く、巨木の森が崩壊の危機に!？」

街から眺める姿は、1000 年前とあまり変わらず、室町時代に描かれた「春日宮曼荼羅」をみても現在と同じような山容が見て取れます。しかし、今、この森は崩壊の危機が迫っていると言われています。この危機は、パッとみてわかる変化ではありません。森をよく見てみると、こんなことに気が付きます。

- ・低木やササなどの地面に生えている植物が少ない
 - ・次世代を担う稚樹（木の赤ちゃん）が少ない
 - ・突然、大きな木が倒れていて明るい場所があり、そこでは、シダの他同じ種類の木が多く生えている
- これらの現象の背景には、実は奈良のシンボルでもある「天然記念物奈良のシカ」が関わっています。

奈良公園に 1100 頭ほど生息すると言われるシカは、春日山原始林内にも 100 頭前後生息すると言われていて、シカが森の地面に生えてくる植物や、森を構成しているシイやカシと言った種類の木々の種（どんぐり）や新芽を食べてしまうため、森の次世代を担う木々が育っていないのです。

・街路樹として奈良公園に植えられたナンキンハゼや春日大社境内に献木されたナギなど、春日山の森林生態系にはなかった種（いわゆる外来種）など、シカが食べない植物が生息範囲を広げている。

・どんぐりのなる木に「カシノナガキクイムシ」が入り枯れるナラ枯れが発生し、大木が枯れてしまう。

・台風等の被害による多くの倒木や土砂崩れが発生。

これらの対策をとる一方、倒木の端材を公園管理者である奈良県より譲り受け「アートの力で環境保全を伝えていく」という構想のもと、プロジェクトが始まりました。

アート 作品例



昭和 46 (1971) 年 滝坂の道

写真撮影：厚見昌彦氏

奈良県立図書館今昔写真 WEB 蔵



令和 4 (2022) 年 同じ場所で撮影

石柱の後ろにあった藪がなくなっているのがわかる。

写真：ホームページより